

＜春＞「エレクトロニコス・ファンタスティコス！（仮）」



アーティストの和田永が中心となり、使われなくなった電化製品を新たな電子楽器として蘇らせ、あらゆる人を巻き込みながらオーケストラを目指していくプロジェクト。

東京、日立、京都、オーストリア・リンツを拠点に日々共創を続けているプロジェクトチームが2020年初頭より隅田川沿いで滞在製作を開始。いくつかの家電楽器を製作し、実施期間中には体験できる展示コーナーを設けるほか、来場者が演奏にも参加できる仕組みを模索中です。

【実施時期】2020年4月18日（土曜日）～4月19日（日曜日）

【開催場所】ムラサキパーク東京、CITY KART（東京都足立区千住関屋町19-1アメージングスクエア内）

【参加アーティスト】和田永

＜和田永プロフィール＞

1987年生まれ。学生時代よりアーティスト／ミュージシャンとして音楽と美術の領域で活動を開始。2009年より年代物のオープンリール式テープレコーダーを演奏する音楽グループ『Open Reel Ensemble』を結成してライブ活動を展開する傍ら、ブラウン管テレビを楽器として演奏するパフォーマンス作品『Braun Tube Jazz Band』にて第13回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞受賞。Ars ElectronicaやSónarを始め、各国でライブや展示活動を展開。2015年より役割を終えた電化製品を新たな電子楽器として蘇生させ、合奏する祭典を目指すプロジェクト『エレクトロニコス・ファンタスティコス！ | ELECTRONICOS FANTASTICOS！』を2014年に始動させて取り組む。その成果により、第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

＜春＞「ほくさい音楽博」

「ほくさい音楽博」は、墨田区に生まれ、世界に名を轟かせた葛飾北斎への尊敬の念を込めて、子供たちに、世界中の響きの美しい楽器に触れてもらい、その歴史を学び、12月から練習を重ね、発表会を行っていく音楽プログラムです。

子供たちが挑戦するのは、インドネシアの伝統芸能・ガムラン、トリニダード・トバゴ生まれのドラム缶楽器・スティールパン、日本の伝統芸能・義太夫と和楽器の4つ。イベント当日は、発表会を中心に来場者の子供たちに向けた体験会等を実施します。



【義太夫・和楽器 発表会】

発表会実施日：2020年4月18日（土曜日）

発表会会場：江戸東京博物館（東京都墨田区横網1丁目4-1）

講師：竹本京之助（義太夫）、鶴澤弥々（義太夫三味線）、望月太左衛（和楽器）

※義太夫の発表会では、女流義太夫の人間国宝・竹本駒之助さんとの共演を予定

【ガムラン・スティールパン 発表会】

発表会実施日：2020年4月19日（日曜日）

発表会会場：回向院（東京都墨田区両国2丁目8-10）

講師：イ・プトゥ・グデ・スティアワン（ガムラン）、鳥居誠（ガムラン）、安田冴（舞踊）、原田芳宏（スティールパン）

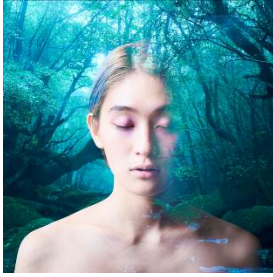
【応募方法について】

- ・義太夫、和楽器、ガムランのプログラムに参加する子供たちを募集します。（スティールパンは後日募集開始）また、プログラムの参加には、参加費が必要です。
- ・義太夫、和楽器は12月10日（火曜日）正午、ガムランは12月18日（水曜日）正午まで下記ウェブサイトにて募集します。なお、応募者多数の場合、抽選となります。
- ・対象学年や定員、練習日等の募集の詳細情報及び申込方法はウェブサイトをご確認ください。

<http://www.toppingeast.com/project/1343/>



<夏> 「BLOOMING EAST プロジェクト(仮)」



幼少期から世界中を旅してきたコムアイが、「東京に住む外国人は幸せに暮らしているのだろうか?」という素朴な疑問の下、これまでに交流を重ねてきた東東京に暮らす外国人ら（ジャイナ教徒の宝石商、ヒジャブを纏ったインスタグラマー等）と共に表現するプロジェクト。

【実施時期】 2020年8月23日（日曜日）

【開催場所】 隅田川流域（調整中）

【参加アーティスト】 コムアイ（水曜日のカンパネラ）

<コムアイ プロフィール>

アーティスト。1992年生まれ、神奈川県育ち。ホームパーティで勧誘を受け、歌い始める。「水曜日のカンパネラ」のボーカルとして、国内だけでなく世界中のフェスに出演、ツアーを廻る。その土地や人々と呼応して創り上げるライブパフォーマンスは必見。好きな音楽は民族音楽とテクノ。好きな食べ物は南インド料理と果物味のガム。音楽活動の他にも、モデルや役者など様々なジャンルで活躍。2019年4月3日、屋久島とのコラボレーションをもとにプロデューサーにオオルタイチを迎えて制作した新EP「YAKUSHIMA TREASURE」をリリース。

※その他のプログラムは後日発表予定

[メインビジュアルについて]



メインビジュアルには、隅田川そのものが送ってきたまさに歴史に敬意を表し、葛飾北斎の「怒涛図」を使用します。また本プログラムが、演者と観客、地域住民と来訪者のような分け隔てることをせず鮮やかなまま混ぜ合わせ、そのぶつかりで生じる飛沫が川の流れになるようなイメージと、絵を重ねています。

右/葛飾北斎 上町祭屋台天井絵<怒涛図>「男浪」(部分) 1845年頃 ©一般財団法人 北斎館

左/葛飾北斎 上町祭屋台天井絵<怒涛図>「女浪」(部分) 1845年頃 ©一般財団法人 北斎館